



朝晩のひんやりとした空気と秋らしい虫の鳴き声から、季節の移ろいを感じる今日この頃です。給食の食材も、きのこ、いも、くりなどを使った秋らしい献立に変わりました。

9月中旬にかながわ学校給食夢コンテストに応募をしました。既存の学校の献立を1件と、子どもたちが考えた夢の献立を3件、教育委員会に送りました。昨年度は、既存の学校の献立で「神奈川県教育委員会教育長賞」をいただきました。今年度も、どれかの献立が受賞をいただけますようにと願いを込めました。子どもたちが考えた夢の献立は、高等部の理社の授業で3グループにわかれてそれぞれ考えたものです。どれもすてきな献立でしたので、11月の給食で実現する予定です。またそれぞれの献立の提供日には、高等部理社の授業内で厨房の様子をライブ中継し、子どもたちが考えた献立が調理されている様子を見てもらおうと計画中です。こちらもとても楽しみです！

なくそう！フードロス ～Vol.5 世界食糧デー～

10月16日は「**世界食糧デー**」です。世界食糧デーは、この日をきっかけに世界の飢餓や食糧問題について考え直そうという目的で、国連が定めた世界共通の日です。

食べ物はたくさん作られている

世界中の人が十分に食べられるほどの食料は生産されています。しかし、世界中の人に食料が行き渡らず、また一方で多くの食料が捨てられています。食料のために働かなければならず、学校に行けない子どもたちもたくさんいます。



フードロス、なぜ問題？

本当であれば食べられるはずだったにもかかわらず捨てられてしまう食べ物、「フードロス」。FAO（国際連合食糧農業機関）によると、フードロスが与える影響のひとつに**地球環境への負荷**があります。世界中で課題となっている温室効果ガスは気温の上昇や局所豪雨、洪水、干ばつなどの異常気象等をもたらし、近年の日本でもその影響を感じるどころです。世界の温室効果ガスの排出量の約10%が、フードロスによって排出されていると言われています。また、温室効果ガスによる異常気象によって農作物は大きな打撃を受け、特に大きな影響を受けるのが最貧国に住む小規模な農家たちです。このようにして、食の貧困は負のサイクルに陥っているのです。

限られた資源

食料を生産するには水や土地などの資源が、食料保存や流通のためには石油や電気などの資源がたくさん必要です。これらの資源は有限です。限られた大切な資源を有効に使うためにも、食料問題はひとりひとりの心がけと行動の積み重ねが大切なのです。